

## 多文化共生に関する市民アンケート調査結果（単純集計）

### 1 調査の目的

「丹波市多文化共生推進基本方針」の策定や外国人市民の受入環境整備等の多文化共生施策に生かすことを目的として実施した。

### 2 対象

市民（市内在住・在学・在勤の人）

### 3 実施方法

広報たんば、Facebook・LINEなどで、アンケート調査について周知を行い、WEBで回答

### 4 調査期間

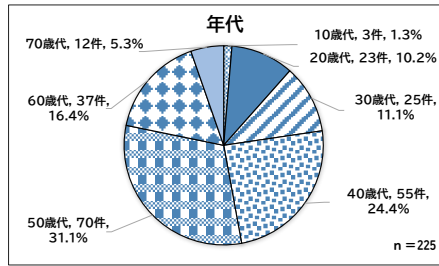
令和5年11月27日～令和5年12月11日

### 5 回答者数

225件

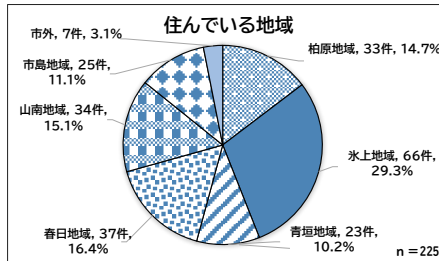
Q1.あなたの年代について教えてください。

10歳代	3件
20歳代	23件
30歳代	25件
40歳代	55件
50歳代	70件
60歳代	37件
70歳代	12件
80歳代以上	0件
計	225件



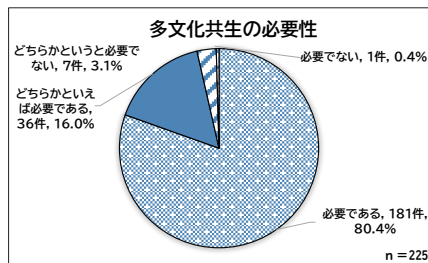
Q2.あなたが住んでいる地域について教えてください。

柏原地域	33件
氷上地域	66件
青垣地域	23件
春日地域	37件
山南地域	34件
市島地域	25件
市外	7件
計	225件



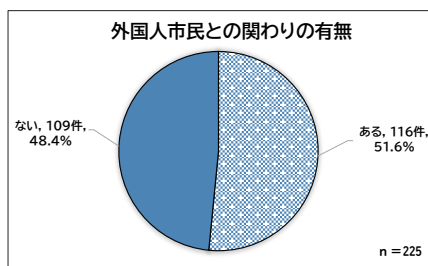
Q3.あなたは、国籍や民族などの異なる人々が、互いの文化的ちがいを認め合い、対等な関係を築こうとしながら、共に生きていく社会が必要だと思いますか。

必要である	181件
どちらかといえば必要である	36件
どちらかといえば必要でない	7件
必要でない	1件
計	225件



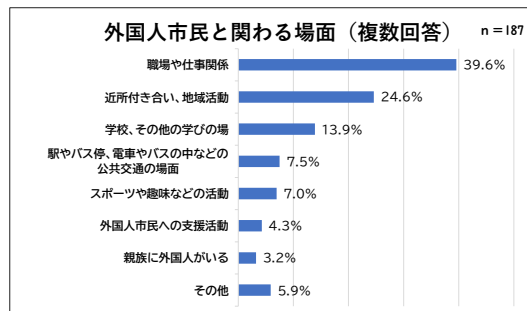
Q4.あなたは、普段生活をしていて、外国人市民と関わったことがありますか。

ある	116件
ない	109件
計	225件



Q5.Q4にて、「ある」を選択された方にお聞きします。どのような場面で外国人市民と関わりましたか(複数回答可)

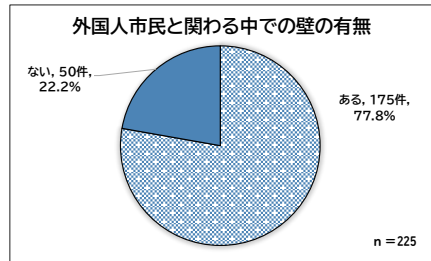
職場や仕事関係	74件	39.6%
近所付き合い、地域活動	46件	24.6%
学校、その他の学びの場	26件	13.9%
駅やバス停、電車やバスの中などの公共交通の場面	14件	7.5%
スポーツや趣味などの活動	13件	7.0%
外国人市民への支援活動	8件	4.3%
親族に外国人がいる	6件	3.2%
その他	11件	5.9%
計	187件	



その他の内容	
学生時代の友人	
体験留学ホームステイ先として。	
クルーズ旅行中にたくさんの外国の人と話が出来た。	
飲食店	
居酒屋	
友達	
知人の旦那さんが外国の方です。	
よく利用するスーパーなどの店舗の店員が外国籍の方	
コンビニ、商業施設	
教会で	
飲食店	

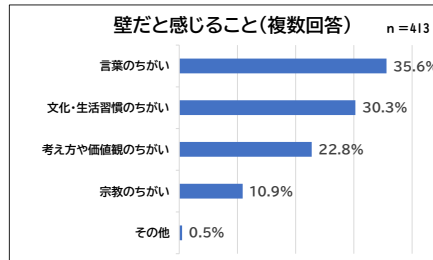
Q6.外国人市民との関わりで、壁があると思いますか。

ある	175件
ない	50件
計	225件



Q7.Q6にて、「ある」を選択された方にお聞きします。どのようなことが壁だと感じますか。(複数回答可)

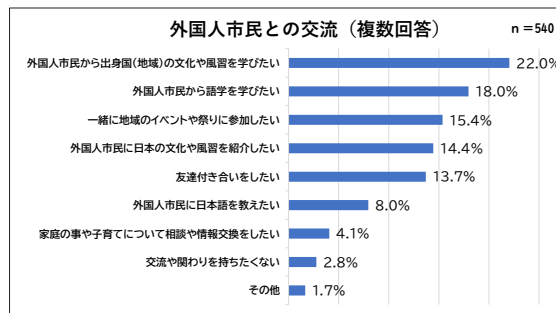
言葉のちがいが	147件	35.6%
文化・生活習慣のちがいが	125件	30.3%
考え方や価値観のちがいが	94件	22.8%
宗教のちがいが	45件	10.9%
その他	2件	0.5%
計	413件	



その他の内容	
外国人の占める割合が増加傾向にあること。	
日本人の外国人対応への潜在的な苦手意識	

Q8.あなたは、外国人市民とどのような交流や関わりを持ちたいですか。(複数回答可)

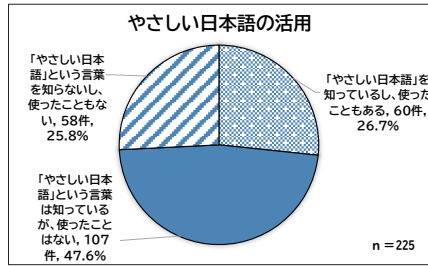
外国人市民から出身国(地域)の文化や風習を学びたい	119件	22.0%
外国人市民から語学を学びたい	97件	18.0%
一緒に地域のイベントや祭りに参加したい	83件	15.4%
外国人市民に日本の文化や風習を紹介したい	78件	14.4%
友達付き合いをしたい	74件	13.7%
外国人市民に日本語を教えたい	43件	8.0%
家庭の事や子育てについて相談や情報交換をしたい	22件	4.1%
交流や関わりを持ちたくない	15件	2.8%
その他	9件	1.7%
計	540件	



その他の内容	
積極的に関わりを持ちたい訳ではないが、強いて関わりを拒否したいわけではない。	
同じ地域住民として、ごく一般的な近所付き合いをしたい。	
いい外国人の方とは普通にお付き合いしていますが、積極的に交流したいとは思いません。	
困っていることがあれば支援したい	
積極的に関わりを持つつもりはありませんが、拒絶しているわけではありません。私には難しいかもしれませんが、日本に来られた以上は日本を日本人を好きになってもらうようなイベントがあれば良いのかなと思います。そして、日本人のことを尊重してくれる人が増えるようなイベントがあれば良いと思います。	
積極的に関わりを持ちたいというよりは、その他の地域住民と同様に一般的な近所付き合いが出来れば良いと考えている。	
出身国の料理	
機会(受動的)があればと思うが積極的・能動的なこと考えたことはない。	
気が合い、友達等になった外国人市民がいれば上記の事を行いたい。	

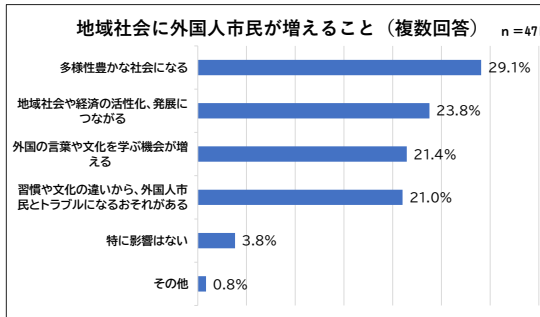
Q9.あなたは、「やさしい日本語」という言葉を知っていますか。また、「やさしい日本語」を使ったことがありますか。

「やさしい日本語」を知っているし、使ったこともある	60件
「やさしい日本語」という言葉は知っているが、使ったことはない	107件
「やさしい日本語」という言葉を知らないし、使ったこともない	58件
計	225



Q10.あなたは、地域社会に外国人市民が増えることについてどう思いますか。(複数回答可)

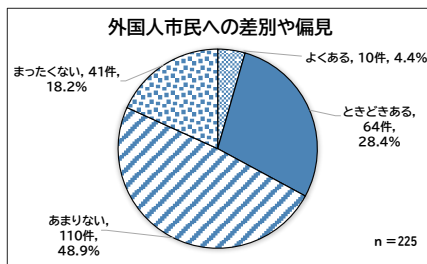
多様性豊かな社会になる	137件	29.1%
地域社会や経済の活性化、発展につながる	112件	23.8%
外国の言葉や文化を学ぶ機会が増える	101件	21.4%
習慣や文化の違いから、外国人市民とトラブルになるおそれがある	99件	21.0%
特に影響はない	18件	3.8%
その他	4件	0.8%
計	471件	



その他の内容	
人数による	
外国人の占める割合には上限などを設けるべきと考えます。人数が増え、権利を主張され、外国人参政権などを付与するような事がないようにしてもらいたい。住みやすい環境を整えることと、参政権などは切り離すべきで、そういった未来が来るのではないかと危惧しています。	
人口減少が進む中で町の活力になる	
少子高齢化の加速に伴う、住民、労働力の減少を補う一助になると思う。	

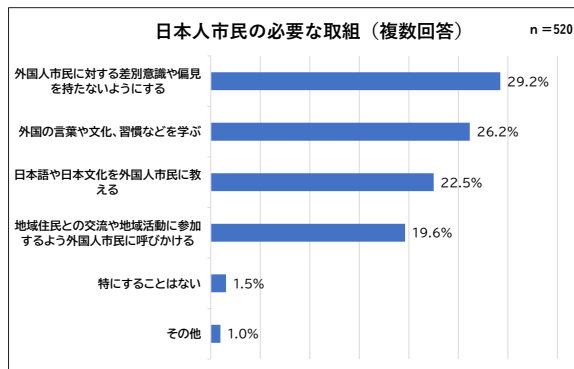
Q11.丹波市において、外国人市民に対する偏見や差別を見たり、聞いたりしたことがありますか。

よくある	10件
ときどきある	64件
あまりない	110件
まったくない	41件
計	225件



Q12.日本人市民、外国人市民が共に安心して暮らせ、活躍できる社会の実現に向けて、日本人市民はどのような取組をすべきと思いますか(複数回答可)

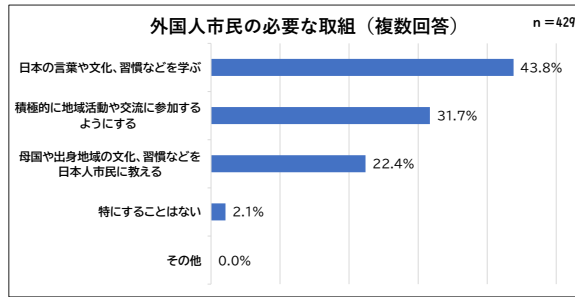
外国人市民に対する差別意識や偏見を持たないようにする	152件	29.2%
外国の言葉や文化、習慣などを学ぶ	136件	26.2%
日本語や日本文化を外国人市民に教える	117件	22.5%
地域住民との交流や地域活動に参加するよう外国人市民に呼びかける	102件	19.6%
特にすることはない	8件	1.5%
その他	5件	1.0%
計	520件	



その他の内容	
困っている様子があるなら手助けする	
丹波市には既にたくさんの外国人の方が住み働いておられるが、私の知る限りでは日本人は優しく寛容に接していると思います。日本で生活される以上は外国人の方が日本人を日本の文化を尊重できる社会を作るべきであると思う。私は関わりがないので分からないが現状はそのような関係ができているのではないかと考えています。	
日本人自身も日本の文化をよく知ること。	
外国人市民と交流する機会をつくる	
高齢者が主に受け入れていないように感じているため、待つしかないと思う。	

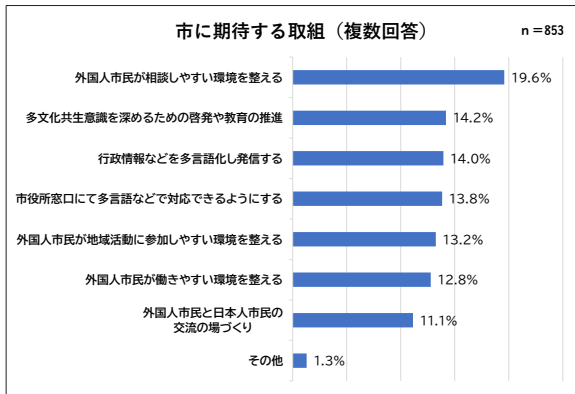
Q13.日本人市民、外国人市民が共に安心して暮らせ、活躍できる社会の実現に向けて、外国人市民はどのような取組をすべきと思いますか(複数回答可)

日本の言葉や文化、習慣などを学ぶ	188件	43.8%
積極的に地域活動や交流に参加するようにする	136件	31.7%
母国や出身地域の文化、習慣などを日本人市民に教える	96件	22.4%
特にすることはない	9件	2.1%
その他	0件	0.0%
計	429件	



Q14.日本人市民、外国人市民が共に安心して暮らせ、活躍できる社会の実現に向け、市の取組として期待することを選択してください。(複数回答可)

外国人市民が相談しやすい環境を整える	167件	19.6%
多文化共生意識を深めるための啓発や教育の推進	121件	14.2%
行政情報などを多言語化し発信する	119件	14.0%
市役所窓口にて多言語などで対応できるようにする	118件	13.8%
外国人市民が地域活動に参加しやすい環境を整える	113件	13.2%
外国人市民が働きやすい環境を整える	109件	12.8%
外国人市民と日本人市民の交流の場づくり	95件	11.1%
その他	11件	1.3%
計	853件	



その他の内容	
外国人市民が生活でトラブルが起こらないよう、日本の習慣やゴミの分別方法などを外国人に周知する。	
日本語学習の強化	
語学研修(日本人向け・外国人向け)、インバウンド対策(観光地、飲食店、宿泊施設)	
市として積極的に推進する必要はないと思う。私達の税金は私達の暮らしを良くすることに使ってほしい。	
しっかりとしたルール(条例)作り。あくまでも日本人が優先されるべき。外国人参政権などが与えられるようなことはあってはならない。	
職業選択の自由が必要。ALTなど限られた職にしかつくことができないため、働ける場所を増やすことが必要	
特になし	
市への届け出関係や、税金関係、受けられる支援等、体系的にまとめた冊子などがあれば、外国人の方にとって分かりやすいだけでなく、窓口で案内する職員も案内しやすいし、他課がやっている制度について知る機会にもなり良いと思う。	
日本語教育の支援	
大人の外国語へのコンプレックス解消。または、子どもがコンプレックスを持たないための本腰をいれた外国語教育の推進。	
日本語教育の推進	

Q15.多文化共生、外国人市民との関わりなどについてのご意見等がありましたら、お書きください。

多文化共生における行政の役割はハード面ソフト面において課題が多くあると感じています。しかしながら、行政のみで1～10まで行うのではなく、外国人市民当事者の話を聞きながら、「一緒に考える場をどうつくるか」が求められる役割であり、そのために場づくり、つながりづくりを中心とした調整機能（コーディネーション、ファシリテーション）を中心に考えていく必要があると感じています。そのなかで、専門的知見を持った人や団体（たとえば、丹波ひとまち支援機構さんなど）にこの機能を担ってもらわなければならないでしょうか

日本語支援をしています。文化や習慣の違いがありますが お互いに理解できるように頑張っていますが、結果がでるまでは とても時間が必要だと思っています。

高齢化社会における働き手の減少に対応するために外国人労働者の方が市内で就業され、生活されることについては理解しているつもりです。  
今後も増加される外国人の方については、日本のことが好きな人に来ていただきたいですし、そうでない人については日本（丹波）の文化や風土、倫理観を深く理解してもらい、日本（丹波）を好きになってもらうことが大切だと考えます。  
丹波ではほとんど聞かれませんが、国内においては、技能実習生として来日しながら、就労ビザが切れても母国に帰らずに日本に不法滞在し、不法滞在だけでなくその他の犯罪を犯す外国人がいることも事実です。外国人労働者の方々も、またその方々を雇用する方々も、日本の法律を遵守する高いコンプライアンス意識を持っていただくことは最低限の条件だと考えます。

東京、京都など訪日外国人が多数いる。  
近い場所まで来ているので、インバウンド対策を行い交流を図ることが一番近道だと思う。

言葉の壁が大きいです。  
外国人市民への関心があり、分け隔てなく仲良くなりたい。  
安価又は無料で大人向け英会話など学べる場所があると良い。

最近 近所に外国人がとて増えてきました。文化の違いや日本のある程度のしきたりはこちらは生活していますが、アパート暮らしにはそぐわない大きな声で夜に話をしたり時には大人数で宴会らしき事を夜中までして大変迷惑である。このようなことを雇い主がきちんと教えるべきであると考えます。

さまざまな言語・文化などの背景を持つ人同士が助け合う地域社会を目指すことは、多文化共生に求められる重要な課題です。  
例えば、地域コミュニティとの関係、労働環境、外国人児童生徒等の受入れ体制などの課題が顕著になってきているなか、外国人労働者受け入れと多文化共生社会形成に向けて、基本的な責任を有する国の責務を明らかにすべきだと思います。

国の方針なので、仕方がないかもしれませんが、私は昨今の移民問題に非常に危機感を持っています。近所では小さなトラブルはよく聞きますし、私自身子供が産まれたこともあり、何かあったらどうしようという怖さもあります。  
差別的と捉えられるかもしれませんが、外国人の「質」をもっと精査したり、いざという時に厳しい対処ができるようにしてほしいです。  
埼玉県川口市の問題とか、胡散臭い話はいくらでも聞きます。これからも私達がこの丹波で安心して暮らせるようにしてほしいです。

気軽に地域の人に参加出来るような国際交流の機会を増やしてほしいです。

イベントや会で出会ったら、気楽におしゃべりが出来るといいなと思います。

外国人が増えると治安が悪くなると言われる方もいらっしゃるかもしれませんが、まずは、外国人市民が疎外感を感じないような環境にし、どこかで心の繋がりが持てる状況があれば、いい方向に進めると思います。

生活面でネット上の買い物など言葉が分からない・通訳困難な状況があった。寮母さんみたいな生活面でもお世話してくれるような環境にあれば少なからずとも日本語を学びつつ生活しやすい環境を作ってあげられるのではないかと感じた事があった。外国人だけの生活だけサポートというよりは誰かの元（ホームステイ等）周りから支えてあげられる丹波市になって欲しいと思う。

テレビなどのマスコミでは、外国人などによる様々な問題が報道されていないことが多い。移民をたくさん受け入れているヨーロッパでもたくさん問題が起こっている。  
外国人を締め出す訳ではないが、人口に占める割合を決めておかないと、人口減の丹波市民の占める割合の外国人比率が大きくなってしまう。人数が増えると外国人のコミュニティが増え、強くなり、結果、日本人が生活しづらいことになるのではないかと。  
市の担当部署は、川口市の問題などを丹波市でも起こることと捉えて欲しい。  
また土地などの売買についても、外国人が購入することについては規制も考えるべき。

日本人も外国人も住みやすい丹波市にして欲しいです。

母国語が違うだけで彼らも人だと思います。子どもや大人でも”フィリピン人”が”中国人”が経営してる店、引っ越してきたなど事実を述べるのではなく差別的に発言する人を見かけます。私の親もその一人です。教育現場はもちろん、大人に対しても意識を変える取り組みが必要だと感じます。セミナーでただ話を聞くという形だけではなく、何か体験的な活動を実施する必要があると感じます。  
教育現場なら親子活動など、ゲームを通して多文化共生について学ぶこともできます。  
多文化共生という言葉が一人歩きしないように、多文化共生を先頭で進めて行く人たちが多文化共生についてしっかり理解をして取り組みを進めてほしいです。

外国人市民の生活圏内への関わりが多くなっている今、日本固有の生活環境や意識、習慣、伝統は大切にしつつ、外国人との共生が大切な時代となっていることを認識した、取り組みが必要である。  
少しずつ現在の生活に沿う形で外国人との接点を高めていく必要を感じる。

外国と同じように日本には日本の文化や価値観があり、日本で生活する以上基本的にはそれを尊重してもらいたいとは思っています。  
何が何でも合わせないといけないとは思わないが、反対に、外国人市民に合わせて日本の文化や価値観を無理に曲げる必要もないと考えている。  
文化や価値観はその人自身の人生やその国の歴史などにも影響され、目には見えないものでもあるので、十分なコミュニケーションが必要になると思う。

先日、「やさしい日本語」の研修を受けました。今のところ、実際に関わる機会は滅多にありませんが、活かすことができればと思います。  
また、多文化や外国人市民について、理解を深めていかななくてはならないと感じています。

市民に、関心や意識のupに繋がるように、色々と発信をお願いします。  
とても勉強になりました。

多文化ばかりに目を向けず、日本の文化に目を向けるべき。

丹波市国際交流協会の会員（会費年間1000円）となり外国人市民と積極的に接する機会をつくるアクションを起こされたい。

お互いの違いを認め、自分らしく生きていける社会の構築。

お互いがお互いを知ることが大切。外国人市民にわかる情報発信と市民に向けて外国人についての情報提供も必要。

特に無し

外国人市民の対応は、市役所にとっては、かなり労力が必要な印象がある。

互いに相手の立場に立ち、理解することが大切だと思います。

丹波市は、まだまだ外国人に対する偏見が強いと思います。以前、神戸市に住んでいましたが、いろいろな国の方が住んでおり、幼少期から外国籍の子供同士で交流があり、多文化が日常生活になっています。日本の労働力が足りない、地方の過疎化などの解決にも、多文化共生が大きく関わると思います。丹波市にもいろいろな国の方が意外とたくさん暮らしています。丹波市でも、多国籍イベント（フード、物販、体験）などあれば、理解、共感などにつながると思います。隔たりのない社会になるといいですね。

丹波市は国際交流協会を中心に異文化理解や交流についてはされているが、外国の方への生活支援が十分ではなく市が組織的に対応できていないように感じる。丹波篠山市であれば「国際理解センター」があり、子どもの教育や授業への支援、日常生活の支援等きめ細かくされている。丹波市については、例えば子どもの授業支援などはコーディネーター役はなく各学校での個別対応になっている。放課後等の学習支援も意識の高いボランティアの方任せになっている。また、日常生活や通院、各所での事務手続き支援などは外国人コミュニティ内での情報共有による自己対応や通訳できる方があくまでボランティアでされており、支援の後ろ盾が十分でない。外国にルーツのある方の各種支援を行う一元的な窓口や組織が早急に必要であることを切実に感じている。

- ・外国人市民との交流の機会をもつことから初めて市民の意識を振り向けることが大切である。啓発事業と交流事業をセットで行う。
- ・自治会行事や祭り、イベントに参加してもらい親睦を深めることで双方の理解が深まる。防災や清掃活動、地域イベントなど地域事業の担い手となれるようつなげていくことが大切。
- ・行政からの情報発信に「やさしい日本語」を使用することは、すべて市民へのユニバーサルデザインの視点につながる。
- ・外国人住民が何を求めて、何を期待しているのか、日本人住民とどういう関係をもちたいのかなど、意識調査の結果をしっかりと市民に伝える必要がある。